

団体運営費補助金調査票（表）

補助金名	子ども会連絡会補助金
------	------------

担当課	教育部 生涯学習課					実施主体	成田市子ども会連絡会	
科目・事業コード	会計	款	項目	事業		R06 予算額	970	千円
	一般	10	05	02	25 - 02	R05 予算額	970	千円
新規・継続の別	継続					R04 決算額	206	千円
補助・単独の別	市単					R03 決算額	182	千円
補助の種類	団体運営費							
交付開始年度	昭和	年度	終了予定年度	令和	8	年度		

事業の目的・概要	<p>成田市子ども会連絡会は、加盟単位子ども会により構成されており、各子ども会の自主性を尊重しつつ、子どもの健全育成に寄与する活動を展開している。また、子ども会まつり等の開催を通じて、子ども会相互の交流を行うほか、活動の充実及び組織の結束を図っている。</p> <p>市として当該団体へ補助金を交付し、子どもたちの自主性、創造性の成長を支援することにより健全育成を推進する。</p>	補助対象事業	<ul style="list-style-type: none"> ・ 育成者講習会 ・ 親子体験事業 ・ 子ども会まつり ・ 子ども会通信発行 ・ 加盟単位子ども会への助成 																				
根拠法令等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成田市補助金等交付規則 ・ 成田市子ども会連絡会補助金交付要綱 	補助基準等																					
留意事項		補助	・ 補助基本額 970千円																				
決算内訳	<table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <th colspan="3">令和 4 年度決算額 (単位：千円)</th> </tr> <tr> <th>収入額</th> <th>支出額</th> <th>翌年度繰越金</th> </tr> <tr> <td>577</td> <td>415</td> <td>162</td> </tr> <tr> <td>収入額の内 自主財源</td> <td>市補助金額</td> <td></td> </tr> <tr> <td>371</td> <td>206</td> <td></td> </tr> <tr> <td>自主財源比率</td> <td>繰越金/補助金</td> <td></td> </tr> <tr> <td>64.3%</td> <td>78.6%</td> <td></td> </tr> </table>	令和 4 年度決算額 (単位：千円)			収入額	支出額	翌年度繰越金	577	415	162	収入額の内 自主財源	市補助金額		371	206		自主財源比率	繰越金/補助金		64.3%	78.6%		率 額
令和 4 年度決算額 (単位：千円)																							
収入額	支出額	翌年度繰越金																					
577	415	162																					
収入額の内 自主財源	市補助金額																						
371	206																						
自主財源比率	繰越金/補助金																						
64.3%	78.6%																						

団体運営費補助金調査票（裏）

評価項目	内 容	評 価	評 価 理 由
公益性	基本構想、実施計画、個別計画など市の施策の方向性と合致しているか	はい	青少年の成長に合わせた体験活動や交流活動を展開しており、成田市総合計画の基本施策に掲げる「青少年を健全に育成する」に合致する。
	市民の利益に寄与することができるか（「はい」の場合、選択式）	はい	工. その他市民の利益に寄与することができる活動に該当
	市民協働を推進する目的があるか	はい	青少年関連各団体と連携し、青少年の健全育成を推進していく必要がある。
	事業を実施できる団体は他にないか	はい	地区の単位子ども会と、上部組織である全子連・県子連・印子連をつなぐ役割を担っている。
必要性	事業の目的・視点・内容が、社会経済情勢や市民ニーズに適合しているか	はい	将来を担う青少年の健全育成に寄与するためさまざまな活動を展開しており、社会情勢や市民ニーズに適合している。
	市が関与する必要性があるか	はい	青少年の健全育成を推進するため、市が積極的に支援していく必要がある。
	事業を実施しなかった場合に、大きなマイナスの影響があると認められるか	はい	子どもたちがその年齢に応じたリーダーシップや経験をえられる機会が減少する。
	類似の事業はないか	はい	特になし
適格性 (妥当性)	団体等の活動内容が、補助目的と合致しているか	はい	青少年健全育成を図るための事業を計画しており、補助目的と合致している。
	団体を支援するに当たり、補助金の交付が適切な手段であるか	はい	青少年の健全育成を目的とする事業であることから、基本的に収益性が見込まれないため、これを補完する必要がある。
	団体の会計処理や補助金の使途は適正であるか	はい	事業計画書に沿った処理がされている。領収書等により使途を確認できる。
	団体の決算における繰越金（剰余金）が補助金の額を超えていないか	はい	R4年度決算：補助額206千円、繰越額162千円
	対象経費は、規則・要綱等により規定されているか	はい	成田市子ども会連絡会補助金交付要綱により、補助対象経費を定めている。
有効性 (費用対効果)	補助金を交付することによる効果を明確に示すことができる指標等はあるか	はい	親子体験事業の参加者数 (H29：93人、H30：117人、R01：196人) 加盟単位子ども会数 (R2：33、R3：24、R4：18)
	補助金額に見合う効果があると認められるか	はい	青少年の成長に合わせた事業を展開しており、青少年の健全育成に寄与している。青少年健全育成活動を行う人材の育成にも繋がっている。
	事業を継続するうえで、補助は必要不可欠であるか	はい	収益性がなく、自主財源のみでの事業実施は困難であるため、補助は不可欠である。
	補助期間（終期）を設定しているか	はい	令和8年度を終期としている。

最終評価	改善
評価者 所見	市内に多数存在する単位子ども会を統括する団体であるとともに、青少年の健全育成という目的の基、関係団体と連携を図るなど、行政目的を補完する役割を担っていると認められる。一方で、自主財源の大幅な増加は見込めず、補助の継続が必要だと考える。 しかしながら、長期にわたり団体の事務局を市が担っており、団体の自主・自立的な活動を一層推進していくため、改善を図る必要がある。